



戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.30

(2015年8月3日号)

〒101-0063東京都千代田区
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■8.30 国会包囲 10 万人行動に集まろう！

「戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は7月期、連日国会前における行動をやりぬき、数万の市民とともに衆議院での強行採決に対して徹底的に抗議を行ってきました。

「連休を越せば世論は沈静化する」という政府・与党の目論見は外れました。新聞各社の調査でも安倍政権の支持率が激減。

7.26 国会包囲行動には約2万5000人、7.28 日比谷大集会には約1万5000人もの市民が参加しました。私たちは全国の人々の怒りの声を取り結び、戦争法案成立を阻止するまで、全力でたたかう決意を固めています。総がかり行動実行委員会は、火曜日の街宣行動、木曜日の国会前集会を中心に、8月期も継続してとりくみます。



「強行採決許すな！戦争法案廃案へ！7.28 大集会」にて（日比谷野外音楽堂）



7.15 強行採決徹底糾弾！抗議集会にて（国会正門前）

そして8月30日には「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8.30 国会10万人・全国100万人大行動」を行います。国会周辺を10万人以上の戦争法案絶対反対！の怒りの声で埋め尽くし、安倍政権を退陣へ追い込みましょう！また、この日は全国各地でも同時行動にとりくみ、全国で100万人の参加をめざしましょう。総がかりの力で、戦争法案廃案、安倍政権退陣、政策転換実現を絶対にかちとりましょう！

■強行採決許すな！戦争法案廃案！

7.28 大集会に1万5千人

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、7月28日、日比谷野外音楽堂で戦争法案に反対する大集会を開きました。強行採決に反対する1万5千人を超える人々が結集し、戦争法案の廃案を訴える抗議の声を上げました。また、集会



参加者は一斉にプラカードを掲げて抗議した（日比谷野外音楽堂）

と同時に国会に向けた請願デモも出発し、国会前ではデモ隊を迎える野党の衆参両議員たちと、エールを交わしシュプレヒコールを上げて、戦争法案の廃案に向けた決意を固めました。国会周辺には戦争法案の強行採決阻止に向けた人々の怒りの声が響き渡りました。



神田香織さん（講談師） 私たちは今日、要請文を手渡すために官邸を訪ねた。ところが、安倍首相は国民の声を聞くと言ったのに、私たちは門前払いにあった。アメリカでの議会の発言がそんなに大切なら、日本を去ってアメリカの議員になればいい。憲法9条は戦争で犠牲になった日本人だけの血と涙の結晶ではない。侵略して迷惑をかけたアジア全体の宝物が9条だ。どうしても数の力で安保法案をゴリ押ししたいというのなら、あの戦争で命を落とした人たちのことを理解しなさいと言いたい。

雨宮処凛さん（作家・活動家） 私は99年と03年にイラクへ行った。この時から日本の戦争への加担は始まっていたが、そのことが何一つ検証も総括もされていない。そんな日本が再び集団的自衛権を行使する資格などない。今、若い人たちのデモが全国各地で起こっている。民主主義が機能不全に陥っている中、こうやって民主主義を取り返す動きがある。私たちの声を聞かない政権をこれ以上のさばらせてはいけない。安倍政権を倒すことを最優先に頑張っていこう。



落合恵子さん（作家） 政治のできない政治家が力を示すために戦争をしようとする、誰がそんな法案にのりますか。外交のできない政治家が力を示すために暴力という装置を使おうとする、そんなこと誰が賛成できますか。私たちは世界中の誰も被害者にも加害者にもしないと70年前に誓ったはずだ。戦争法案を廃案に追い込むまであきらめない。

佐高信さん（評論家） 戦争は政治が敗北した時に起こる。つまり、「攻められたらどうするのか」と言うのは軍人の論理であって、政治家の言う事ではない。中国の脅威などと言うが、外交によって中国との関係を維持するのが政治家の役目ではないか。どこの脅威などと言うのなら政治家はいらない。ある人が「馬鹿な大将、敵より怖い」と言った。こういう大将には早く退いてもらおう。そのためには、公明党を与党から引きずり降ろす必要がある。彼らが野党に戻り、戦争法案を葬り去るまで私は許さない。



古今亭菊千代さん（落語家） 安倍さんは国民の理解が進んでいないと言うが、それは違う。国民は十分理解がしているから反対するのだ。観光地に行くと中国の方がたくさんいる。中国の脅威ばかり煽って観光客が来なくなったらどうするのか。中国がサンゴを破壊したと言っているが、沖縄・辺野古のサンゴを破壊しておいて何を言うか。まだまだ危機感のない人たちがたくさんいる。そういう人たちに今頑張らなければならないとしっかり伝えていこう。

小山内美江子さん（脚本家） 私は子どもの時、親に「嘘つきは泥棒の始まりだ」と教わって育った。我が国の首相は「福島事故は全部コントロールできている」と言った。こんな嘘つきたらない。アメリカへ行って「夏までに戦争法案を通します」とも言った。私たち国民には何も言わずにあんなことを言う。この人は泥棒だ。何の泥棒か。皆が願っている平和という思いを盗ろうとしている泥棒だ。私たちは泥棒を総理大臣にしておくつもりはない。



鎌田慧さん（ルポライター） 安倍首相ほど歴史を学んでいない首相はこれまでにいなかった。歴史を知らないものに未来はない。「亡国に至るを知らざればこれ即ち亡国の儀」とは田中正造の名言だ。安倍首相はまさに亡国の首相だ。これから私たちは安倍首相に歴史の何たるかを教え、民衆の力を教えてやらねばならない。戦後70年目の8月15日から新たに平和な国を作っていくのか、それとも安倍首相の望む戦争する国にするのか、それは私たち一人一人の覚悟で決まる。安倍首相を絶対に打倒する、その覚悟で頑張っていこう。

枝野幸男議員（民主党幹事長） 私たちはルールに基づいて動いており、そのルールをあらかじめ皆が理解しているから社会が成り立つ。それを法的安定性という。ところがこの国の総理大臣の側近中の側近が「法的安定性など関係ない」と語った。総理は改めてその発言を否定し「法的安定性も大事だ」と述べたが、ではあなたのやっていることは何なのか。法的安定性を大事にするならば、これまでの集団的自衛権に対する解釈を勝手に変えることなど言語道断だ。これは国会や党派だけ



の問題ではない。立憲主義・民主主義を守る国民の闘いだ。共に頑張ろう。

吉田忠智議員（社民党党首） 今日の参議院の議論でも、全く説明ができていなかった。私は

明日質問に立つ。ひるむことなく徹底的に追及し、問題点をより明確に国民に伝えていく。参議院では衆議院以上に、野党でスクラムを組んで、そして声を上げている皆さんと一緒に廃案に追い込んでいく。安倍政権には赤信号がともっている。あと一息、頑張っていこう。



小池晃議員（共産党副委員長） 「法的安定性など関係ない」「国際情勢に合わせて法解釈を変える」、そういうとんでもない発言が出てきた。こうなると立憲主義の否定どころではない。法の支配の否定、独裁政治への道ではないか。安倍首相には法案を説明する論理も能力も姿勢もない。今、日本では新たな闘いが起きている。日本の民主主義が大きく発展しつつあるのではないか。党派を超え、立場を超え、世代を超え、10万、20万、100万の包囲で戦争法案を廃案にしよう。

主濱了議員（生活の党と山本太郎となかまたち副代表） 憲法 99 条にあるように、私たち議員には憲法擁護義務がある。その議員が違憲の法案を通すことは許されない。憲法は本来安倍総理を縛るためにある。これを総理は全く理解してない。まずは何より、この法案を阻止するために、皆様と共に頑張りたいと思う。



「安保関連法案に反対するママの会」がアピール

池田亮子さん（安保関連法案に反対するママの会） 安保関連法案に反対するママの会が行った、「7・26 戦争立法反対！ ママの渋谷ジャック！デモ」は大成功だった。ママの会は「だれの子どももころさせない。」を一致点に、Facebook で呼びかけ、賛同人は今日までに 18000 人になり、各地に急速に広まっている。子どもたちのために絶対にあきらめない、これが参加したママたちの共通の思いだ。



集会後は国会請願デモの行列が続いた（衆議院議員会館前）



衆議員・参議員の議員面会所前で野党国会議員らとエール交換を行った（参議院・議員面会所）

■7.28 内閣府へ廃案を求める要請書を提出

7月28日、戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、「平和安全法制」の廃案を求める要請書を首相官邸および内閣府に対して提出する行動を行いました。

安倍晋三首相宛ての要請書について、総がかり行動実行委員会からの事前の面会要請を首相官邸側は拒否しました。そのため、呼びかけ人や国会議員を先頭に首相官邸入口で署名の受け取りに応じるよう直接要請行動を



首相官邸では、安倍首相宛ての要請書の受け取りは拒否された（首相官邸前）。
左から神田香織さん、雨宮処凜さん、福島みずほ議員（社民党）、
内田雅敏さん（弁護士）、落合恵子さん、佐高信さん、鎌田慧さん



「平和安全法制」の廃案を求める要請書を提出した（内閣府請願課）

行いました。警官や職員らとのやり取りの結果、責任ある立場の人物による誠実な対応はなく、首相官邸では受け取りができないため、内閣府の請願窓口で提出するようにとの一方的な返答で要請書を突き返されました。そのことを徹底的に弾劾しながら内閣府に移動し、内閣府請願課の事務方を通じて、しっかりと受け取りをさせたことを報告します。

■7.28 総がかり行動実行委員会記者会見

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、首相官邸および内閣府への要請書提出行動に先立ち、衆議院議員会館内で記者会見を行いました。呼びかけ人の佐高信さん（評論家）、鎌田慧さん（ルポライター）らが出席し、

『「平和安全法制」の廃案を求めます』という要請書には、作家の大江健三郎さんから著名人や学者ら52人（7月28日時点）が賛同していることが報告されました。会見では、戦争法案や安倍政権への批判、要請書の提出行動を行う決意表明などが行われました。



要請書の提出に先立ち、呼びかけ人らが記者会見を行った（衆議院議員会館）。
左から雨宮処凜さん、落合恵子さん、鎌田慧さん、神田香織さん、
佐高信さん、内田雅敏さん（弁護士）

■ 「戦争法案」を葬ろう 7.30 集会



多くの参加者で会場は満員となった（参議院議員会館）

7月30日、戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラムの共催で、「『戦争法案』を葬ろう7.30集会」が参議院議員会館講堂で開催されました。集会では「戦後史から60年安保と今国会を考える」と題して作家の保阪正康さんが講演し、その後、特別委員会を終えたばかりの小川敏夫議員（民主党・安保法制特別委員）が駆けつ

け、参議院での審議の様子を報告しました。小川議員は、「今日の委員会では、『法的安定性など関係ない』という磯崎補佐官の発言を追及した。これは非常に重要な問題なので、今後もしっかり対応したいと思う。審議の中で見えてきたのは、時の総理がその気になればいつでも軍隊を出せるというような規定の法律だということだ。『我が国と密接な関係にある他国』というが、その定義がない。存立危機についても、何をもって危機とするのか定義がない。つまり総理大臣がどんな判断をしても法で防げない。だから『法的安定性など関係ない』という言葉が出てくる。このひどい法案を廃案にするため徹底的に頑張っていきたい」と法案の矛盾点について厳しく指摘しました。

保阪正康さん（作家） 私は昭和14年生まれの75歳で、癌も二つ患った。しかし今の世の中に猛烈に腹が立ち、このまま死ぬわけにはいかないと思っている。昭和35年のいわゆる60年安保からすでに55年が経っているが、今こそ私たちは近現代史を根本から見直し、何を学ぶべきなのかを問うていく必要がある。



保阪正康さんが60年安保と現在の状況について講演

「戦後史から、『60年安保』と今国会を考える」

私は60年安保に真正面から取り組んだ世代の一人だ。私は京都の大学にいたが、普段京都の府学連が開く集会は数千人規模だった。しかしあの運動の最盛期には高校生や自治会のない女子大も含め、5万人の学生が円山公園に集まった。普段のデモだと、タクシーの運転手や商店のおじさんに「お前たちは生活している人間を何だと思っているんだ」と言われ、必ず喧嘩になっていた。ところがこの5万人を動員したデモの時は誰もそんなことを言わず、逆に拍手をしていたほどだった。動員をかけるデモではなく、自然発生的に人が集まったデモだった。京都だけでなく全国でもそうだった。

なぜ60年安保がこれほど盛り上がったのだろうか。理由はたった一つ、岸信介という人物に対する不信感、歴史的な嫌悪感だと私は思う。それは嫌悪感という言葉以外で表せない。戦争が始まれば東条内閣の閣僚になり、戦争が終わればさも軍に反対したような顔をしてい

る。権力しか頭にない人間だ。東京裁判では戦争犯罪者として巣鴨に収容されていた。彼は首相になって最初に何をやったか。警職法を持ち出した。これは警察を戦前の特高警察のようにしようという法だ。それはさすがに国民の反対で潰された。その後安保条約の改定を持ち出し、片務的な条約を双務的な条約に変えたいと言った。確かに安保条約は1956年のサンフランシスコ講和条約の時に吉田茂が密かに署名したもので、アメリカが自由に日本に基地を作れるなど、日本の主権はほとんど認められていない条約だった。日本は軍事的に力がないからアメリカが守る。その点で片務的であった。それをお互いに五分五分にしようというのだからもっともらしい。でも日本をアメリカに並ぶ軍事大国にするのか。岸首相の選択する道は、言葉は何であれ軍事大国を目指すということだった。彼は藤山愛一郎という外務大臣を使ってアメリカと交渉し条約の改定文をまとめた。それを国会に提出する。当時の社会党には精鋭な質問スタッフがいて、彼らが精密な質問をした。政府答弁はまったく基本的な線が作られておらず、ころころと内容が変わった。

強硬路線と権力欲にまみれた岸信介

当時、自民党の中には反主流派がいて、岸首相のやり方はひどい、もっときちんと答えるべきだという声もあった。彼らがチェック役になっていた。しかし結局、安保特別委員会で強行採決された。その後国会を囲む大規模なデモがあり、岸信介は自衛隊の出動を要請する。当時の防衛庁長官の赤城宗徳は、「自衛隊出動などとんでもない。デモ隊に向かって鉄砲を撃つのか。そんなことするなら俺の首を切ってからやれ」と言った。結局出動しなかったが、そこまでの流れを追いかけていくと、岸首相の権力者としての姿勢の中に明らかに一つのスタイルが見える。つまり、国民の生命など知ったこっちゃないということだ。戦前はアメリカを、戦後は共産主義国を仮想敵国としたように、彼らは仮想敵国を作らないとやっていけない人たちだ。つまり、論理が自立していない。だから平気で何でもする。そこに、有能な官僚の状況判断としての選択肢しか選べない、政治家の宿命を私は見る。倫理や哲学があれば、政策一つ一つに理由がつけられ、理解もできる。しかし岸信介がやろうとしたのは、常に状況に合わせた強行路線だった。常に仮想敵国に対する防衛によってしか政治ができない。明治からの近代日本が生んだ官僚の典型的なタイプ。こういった政治家は主義主張を平気で変える。国民のことではなく、自分の権力のことしか考えていない。近代日本の富国強兵政策の理念を捨てきれなかった人たちが、昭和30年代の指導者であった。そのことに対する不潔感が、デモをあれほどまでに昂揚させた。私たちは戦争を指導した人を許さない、そのことが60年安保で明確に意思表示された。時代に合わせて都合よく生きる官僚的な人々にノーを突きつけた。



軍事体制の価値観

満州事変からポツダム宣言受諾まで、日本は軍事主導体制のもとで大きな網をかけた。この時代の役人は戦時予算の組み方しか知らない。平時予算を組んだことがない。彼らが無能なのではなく、軍事主導体制の価値の中でしか動けないのだ。陸海軍合わせて延べ3800人ほどが特攻隊としてアメリカの航空母艦にぶつかっていった。彼らの7、8割は学徒兵だった。昭和50年代に軍事指導者たちに話を聞いてまわった時、どうして軍人が特攻しなかったのかと聞いてみた。すると、「あなたは戦争を知らないのですね」と言われた。そして「一人の軍人を育てるのものすごくお金がかかる。それだけの人員をそんな作戦には使えない」と言った。今ではひどい話だと思うだろうが、軍事体制の下では何ら不思議ではない。人間の価値が序列化している。広島に原爆が落とされた時、旧制中学校の学生たちが死体処理に駆り出された。しかし、海軍士官学校の学生は一人も駆り出されていない。軍人はエリートだから被ばくさせてはならないというわけだ。軍事体制の価値観は日常の中に紛れ込み、人間を序列化し、差別化し、下の人間から切り捨てていく。今度の安保法案が通れば、序列化が始

まる。そういった怖さを抱えていることを知る必要がある。軍事指導者の息子はほとんど戦争で死んでいない。そういう仕組みを作るからだ。戦争の残酷さを抽象化してはいけない。より現実的に見なければいけない。今も受け皿ができていないか。なぜ非正規雇用の人たちを増やしているのか。それは意図的に作られた序列化・差別化ではないか。

大義のない安保関連法案

物事を知らず、抑制がきかない指導者を持った国は不幸だ。私は朝日新聞の書評も担当しており、知識・教養は基本的には本を読むことから始まると思っている。だから物を知らない人は本を読んでいないと言える。岸信介は本を読んでいた。だから彼の発言や答弁はある程度知識に基づいた深みがある。ただ、それとは別に、人間としての姿勢に先ほど申した不信感のようなものがあつた。ところが、今の首相は物を知らない。安倍首相の答弁を見ると言葉に対する責任というものが無い。岸信介はもっと狡猾で、それほど単純ではなかった。しかし安倍首相はテレビに出て平然とひどい説明をする。今がどんな時代であり、何をする必要があり、過去にどんなことをしたのか、知ったこっちゃない。本を読んで物を知っていることが偉いとは言わない。しかしこういう首相に命に関わる議論をしてほしくない。当たり前のことだ。太平洋戦争は表向きは理由があつた。人を動かすために大義をつけた。しかし今の安保関連法案には何もない。慌ててここ数日、中国が怖いなどと言いだした。こんな付け焼刃で私たちをコケにしようとする。

今大きな危機意識が人々動かしている。かつては組合などが動員をかけていた。しかし今は違う。安倍内閣を反面教師にして、本当の自立する市民が生まれてきた。自立した市民が一人一人、この劣化した内閣を問い正していかなければ、何のための戦後 70 年だったのか。とにかく、安倍首相は指導者として欠けているのだということを、最低限の共通の理解として、抵抗していくことが大切だと思う。

■7.30 戦争法案反対 国会前連続集会（第 11 回）

戦争をさせない・9 条壊すな！ 総がかり行動実行委員会は、7 月 30 日、「戦争法案反対 国会前連続集会」の第 11 回目を開催しました。これまでで最高の約 2500 人の市民らが参加し、参議院で審議中の戦争法案に対して抗議の声を上げました。集会には多くの国会議員も参加し、党派や立場を超えて、法案阻止のために全力で闘う決意を表明しました。



議員会館前は約 2500 人の参加者で溢れ返った（衆院第二議員会館前）

集会に参加した、松田藤子さん（辺野古・大浦湾に新基地つくらせない二見以北住民の会）は、「安倍政権は戦後 70 年の沖縄の苦しみを理解することもなく、心から向き合うこともなく、基地と安保を押しつけてくる。もう沖縄は国策に翻弄されるわけにはいかない。安倍政権の沖縄差別・蔑視は許せない。民意をないがしろにする暴走政権を止めるために、オールジャパンで頑張る決意だ」と沖縄からの連帯のアピールをしました。



親子で「戦争法案反対」の声を上げる参加者の姿も増えてきた

また、小川勝也参議院議員（民主党・安保法制特別委員）は「与党は『密接な関係にある他国が攻撃を受けた時に我が国は武力行使ができる』と明確に答弁している。それに対して『先制攻撃につながるのではないかと』と質問した。外務大臣は『先制攻撃に当たる』と答えた。9条を持つ国がどうして先制攻撃などできるのか。答弁をすればするほど国民の疑念は大きくなっている。今後もこの法案の問題点を一つ一つ明らかにしていくので、共に国民的な運動を盛り上げてほしい」と訴えました。

■みなさんからのメッセージ

— 7月15日の戦争法案・衆議院強行採決には強い怒りを感じました。違憲法案を数の力に任せてゴリ押しするとは…何という傲慢な政権の独裁ぶり。民意も憲法も若者の命も踏みにじる



7.28大集会でプラカードを掲げて抗議の声を上げる参加者（7月28日、日比谷野外音楽堂）

政権与党に、もはや「自由民主」党を名乗る資格などありません。参議院審議で必ず廃案にするため、民主党、社民党、共産党、生活の党など野党共闘で頑張してほしいです。

（さいたま市・男性）

— 安倍政権の行った15日の強行採決は、本当に許されないことだと考えます。断じて法案を通してはならない。私は戦争に行きたくないし、誰も行かせたくない。そのことを毎日考え続けていますし、これからも考え続けます。

（北海道・女性）

— 現在は85年前の戦前・戦中に似ているようですが、戦後生まれの私は、「こんな世相だったのか」と想像するしかありません。

3・11を体験させられ、気付かせてもらったのに、戦争法案の衆議院通過や川内原発の再稼働など、歯がゆく情けない思いです。愚痴っても仕方がないので私も行動します。

（65歳・男性）

■集会・活動スケジュール

8月3日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページ、または「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

8月 4日（火）18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 6日（木）17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 8.6院内集会
 場 所：参議院議員会館1階 多目的ホール
 講 師：孫崎享さん（元外務省・国際情報局長）
 主 催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム

8月 6日（木）18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会（連続行動第12回）
 場 所：衆議院第2議員会館前

8月 11日（火）18時00分～19時00分 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 13日（木）18時30分～19時30分 戦争法案反対国会前集会（連続行動第13回）
 場 所：衆議院第2議員会館前

8月 18日（火）18時00分～19時00分
 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 20日（木）18時30分～19時30分
 戦争法案反対国会前集会（連続行動第14回）
 場 所：衆議院第2議員会館前

8月 25日（火）18時00分～19時00分
 とめよう！戦争法案 一斉街宣行動

8月 26日（水）18時00分～
 安保法制等の法案に反対する日比谷野音
 大集会&パレード
 場 所：日比谷野外音楽堂
 主 催：日本弁護士連合会

8月 27日（木）18時30分～19時30分
 戦争法案反対国会前集会（連続行動第15回）
 場 所：衆議院第2議員会館前

8月 30日（日）14時00分～
戦争法案廃案！安倍政権退陣！
8.30 国会10万人・全国100万人大行動
 場 所：国会議事堂周辺

お問い合わせ先		
総がかり行動実行委員会		http://sogakari.com/
戦争をさせない1000人委員会	TEL 03-3526-2920	http://anti-war.info/
解散で憲法9条を壊すな！実行委員会	TEL 03-3221-4668	http://kyujokowasuna.com/
戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いがす共同センター	TEL 03-5842-5611	http://www.kyodo-center.jp/

「戦争をさせない全国署名2015」 第3次締め切り：8月31日

昨年みなさんをお願いしてきた「戦争をさせない全国署名」は、合計257万264筆（追加提出分含む）集まりました。新たに呼びかけている「戦争をさせない全国署名2015」は、第1次集約で165万8955筆を6月に提出しました。現在、第2次集約中ですが、さらに延長して第3次集約の締め切りは8月31日（月）です。第3次集約分は9月中旬に提出予定です。たくさんの署名をお待ちしております。